

# 検査結果の見方



血液検査は現在の体の状態を知るうえでとても重要な情報です。当院で検査している主な項目の意味や見方を紹介いたします。

## 検査結果 時系列画面プリント

患者番号: 〇〇〇〇〇〇〇

患者氏名: シャボ  
タロウ  
太郎 様

検査項目	基準値(単位)	2010/05/01	2010/06/01	2010/07/01
乳ビ				
溶血				
総ビリルビン	LT 1.1 mg/dL			
CK(CPK)	M 30-200 U/L			
LDH	LT 229 U/L			
ALP	LT 39 U/L		240	248
AST(GOT)	LT 39 U/L		26	30
ALT(GPT)	LT 35 U/L		28	35
γ-GTP	LT 55 U/L		57H	77H
総蛋白	6.5-8.2		7.0	7.3
アルブミン	GT 4.0		4.3	4.2
CI(クロール)	99			
Na(ナトリウム)	135			
K(カリウム)	3.5			
Ca(カルシウム)	8.8			
IP(無機リン)	2.2			
尿素窒素(BUN)	7.0			
クレアチニン	LT			
eGFR				
尿酸(UA)	LT			
中性脂肪(TG)	LT 145 mg/dL	110	120	140

### 記号の意味

H: 基準値より数値が高い  
L: 基準値より数値が低い

それぞれの項目の基準値が示されています

### 記号の意味

M: 男性の基準値  
F: 女性の基準値  
LT: 以下 GT: 以上

## 基準値とは

血液検査の基準値は絶対的なものではありません。健康な人の平均値をとったものです。健康な人でも5%位の人は基準値から外れることがあります。

検査方法、機器の種類、試薬の種類によっても基準値は若干異なってきます。

大切なのは今までの個々の検査値とどの程度変化しているか比べることです。検査ごとに一喜一憂しないようにしましょう。

取り上げていない項目や不明な点は主治医にお尋ねください。



## 肝・胆・脾機能検査

### LDH(乳酸脱水素酵素)

肝臓や心筋、骨格筋、赤血球などに含まれます。これらの組織が傷害されると高値になります。

### AST(GOT) ALT(GPT)

ASTは肝臓や心筋、骨格筋、腎臓などに多く含まれる酵素で、ALTはほとんどが肝臓に存在します。通常、ASTとALTを同時に測定して両者の数値の上がり方で「肝臓が傷害されているか」「肝臓以外が傷害されているか」を推測することができます。

### $\gamma$ -GTP

肝臓などに含まれる酵素です。肝臓が傷害されたり、胆管が詰まったりすると高値になります。また、 $\gamma$ -GTPは飲酒で上がりやすいので、アルコールの飲みすぎには注意しましょう。

### ALP(アルカリホスファターゼ)

肝臓、小腸、骨、胎盤などに含まれる酵素です。これらの臓器が傷害されると高値になります。

### 総蛋白 アルブミン

血清中に含まれる蛋白質の総称で、体液を調整し、栄養を行き渡らせる働きがあります。また、総蛋白の中で大部分を占めるアルブミンは、主に体液のバランスを調整する働きがあります。このアルブミンは肝臓で作られるので、肝臓の機能が落ちたり、栄養状態が悪くなると低値になります。

### アミラーゼ

胰液と唾液に分泌される酵素で、食事で摂ったデンプンをブドウ糖に分解する働きがあります。膵炎や耳下腺炎などで高値になります。

### 総ビリルビン

ビリルビンとは赤血球中のヘモグロビンが分解されてできる物質で、肝臓や胆のうに多く存在します。肝臓や胆のうに障害が起きたり、体内で赤血球がたくさん壊れたりすると上がります。



## 腎機能検査

### 尿素窒素(BUN)

蛋白質が分解されて尿素窒素になります。この尿素窒素は通常は腎臓でろ過され、尿として体外へ排出されますが、腎臓の機能が低下すると排泄されなくなるため高値になります。

### クレアチニン

筋肉中の物質からできる老廃物で、腎臓でろ過され尿中に排出されますが、腎臓が傷害されると排泄できなくなり高値になります。



## 脂質検査

### 中性脂肪(TG)

身体に存在する脂肪のひとつで、エネルギー源として活用されますが、余った分は皮下脂肪や内臓脂肪として蓄えられます。また、高値の状態が続いていると動脈硬化を引き起こしやすくなります。

### 総コレステロール

総コレステロールとはHDLコレステロールや、LDLコレステロールなどのコレステロールの総称です。HDLコレステロールは別名善玉コレステロールといわれ、体内の余分なコレステロールを肝臓へ戻す働きがあり、動脈硬化の予防的役割をします。LDLコレステロールは別名悪玉コレステロールといわれ、高値の状態が続いていると動脈に蓄積され、動脈硬化を引き起こしやすくなります。



## 心筋・骨格筋検査

### CK(クレアチンキナーゼ)

心筋や骨格筋など、身体のあらゆる筋肉に含まれています。CKが高値の時は心筋梗塞などの心臓の病気や筋肉の病気を疑います。

### トロポニン

心筋の収縮を調整する蛋白で、心筋梗塞など心筋が傷害されると高値になります。

### ミオグロビン

心筋や骨格筋に含まれる蛋白で、それらが傷害されると高値になります。



## その他

### Ca(カルシウム) IP(無機リン)

カルシウムやリンはそのほとんどが骨や歯に存在し、残りは血液中や全身の組織に存在します。カルシウムが不足したり、リンが過剰になると骨粗しょう症を引き起こしやすくなります。

### 尿酸(UA)

尿酸は細胞内のプリン体が分解してできる老廃物です。血液中の濃度が高くなると結晶化し、痛風の原因となります。プリン体を多く含んでいる食べ物(肉や卵、ビールなど)の過剰摂取や、腎臓の機能が落ちることにより上がります。

### CRP

細菌感染や急性炎症などがあると高値になります。



## 血液検査

### 白血球数

細菌やウイルスなどによる感染から身を守る働きをしています。低値になると免疫力が低下した状態で感染が起こりやすくなり、実際に感染・炎症が起こっている時には高値になります。

### 赤血球数 血色素量(ヘモグロビン)

赤血球の中にあるヘモグロビンが体中に酸素を運ぶ役割をしています。これらが低値になると貧血となり、めまいが出やすくなります。

### 血小板数

止血にかかわる働きをします。血小板数が低値になると、出血しやすくなったり、血が止まりづらくなることがあります。



## 糖代謝検査(糖尿病の確定診断の指標になります)

### 血糖

血液中のブドウ糖の量を表し、エネルギー源として全身で利用されます。食後30分で最も高値になります。

### HbA<sub>1c</sub>

過去1~2ヶ月の血糖を反映します。血糖が高い状態が続いていると、高値になります。



## 感染症検査

### HBs抗原

陽性の場合はB型肝炎ウイルスに感染している状態を表しています。

### HCV抗体

陽性の場合はC型肝炎ウイルスに感染中、もしくは過去に感染した可能性があることを表しています。

※B型肝炎もC型肝炎も感染が判明した場合は、現在発病しているのか、無症状のまま推移するキャリアの状態であるかを調べる追加検査が必要になってきます。



## 甲状腺検査

### TSH(甲状腺刺激ホルモン)、FT3・FT4(甲状腺ホルモン)

TSHは下垂体から分泌され、甲状腺ホルモンの分泌と合成を促進します。FT3・FT4はエネルギー代謝に関わるホルモンでTSHにより調整されます。甲状腺機能低下症(橋本病等)などではTSH高値、FT3・FT4低値となり、甲状腺機能亢進症(バセドウ病等)などではTSH低値、FT3・FT4高値となります。